

日本オラクル

次世代エンタープライズシステム環境に向けて Fusion Middleware による全体最適を推進

アプリケーションサーバの時代から 統合ミドルウェアの時代へ

メインフレーム・コンピューティング、クライアント/サーバ・コンピューティングの時代を経てきた今日のITシステムを表現するキーワードは、SOA（サービス指向アーキテクチャ）やEA（エンタープライズ・アーキテクチャ）など様々である。その中で真の競争力のあるITシステムを実現するポイントについて、日本オラクル(株) 執行役員システム事業推進本部長の三澤智光氏は次のように語っている。

「Webシステムで業務システムを実現できるようになった今日、J2EEアプリケーションサーバなどの単体機能を理由に製品を選んだ

り、システム構築を行う時代は終わり、セキュリティやポータルなどの機能はミドルウェアの主要機能として提供される時代になりました。さらに、そのミドルウェアの主要機能は、実績のあるグリッド・コンピューティング上で稼動し、オープンでスタンダードなテクノロジーを実行することが必要です。当社は、イニシャル&ランニングコスト、インテグレーション・コスト、運用管理コストなどの『コスト削減』、ITシステムに起因する企業リスクを排除していく『企業コンプライアンス』、そして『標準技術の採用』により異なるアーキテクチャを融合してビジネスの変化に俊敏に対応していくことを目的とした取組みを展開しています。」



日本オラクル(株)
執行役員
システム事業推進本部長
三澤 智光氏

データベースとミドルウェアの統合で EA 基盤を実現

コンピューティング・スタイルをオープンシステムにすることによって、ソフトウェア資産コストの大幅な低減と開発コストの削減が可能となった。しかし、オープンシステムにも「従来型」と「統合型」がある。従来型ミドルウェアとは、データベース(DB)とアプリケーションサーバ(AS) それ以外の必要な機能が分断されている状況のことである。現在、オープンシステムに使われるJavaテクノロジーやインターネットの仕組みは、歴史が浅く、インターネットシステム構築の経験をもつプロジェクトリーダーの数も少ないため、従来型ミドルウェアを活

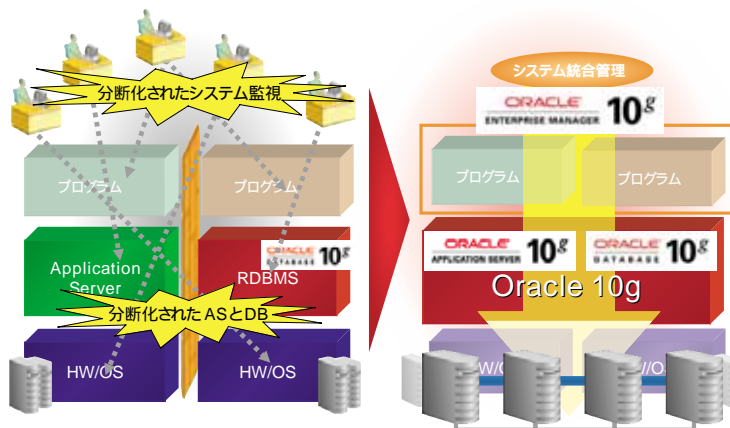


図1 データベースとミドルウェアの統合で機能を最大限に発揮できる

用するにはリスクが伴ってしまう。

一方、統合型ミドルウェアは、業務アプリケーションの実行に必要な要素を全て揃え、DBとの統合運用を可能にすることで、従来型ミドルウェアの課題を解決したものである。Oracle 10gが提供するグリッド・コンピューティングのテクノロジーを活用し、その上でオープンスタンダードなテクノロジーにより業務アプリケーションの実行に必要な全ての機能を提供する「Oracle Fusion Middleware」は、統合型ミドルウェアの代表的なものである。Oracle Fusion Middlewareは、運用管理ツールである「Oracle Enterprise Manager」がグリッド・コンピューティングを構成するOracle Database 10gの管理とOracle Fusion Middlewareの機能、その環境上で稼動するアプリケーションまでを一括で管理する（図1参照）。つまり、アプリケーションにトラブルが発生した場合でも、アプリケーションの特定から問題点の分析や切り分け、パフォーマンスを向上させるための最適なチューニングまでを一括して行うのである。

プロセス統合とデータ統合により 変化に柔軟かつ迅速に対応

Oracle Fusion Middlewareは、SOAの実現に最適である。SOAによるプロセス統合の中心となるアーキテクチャにBPEL（Business Process Execution Language）がある。SOAの実現には、このBPELテクノロジーを中心としたラ

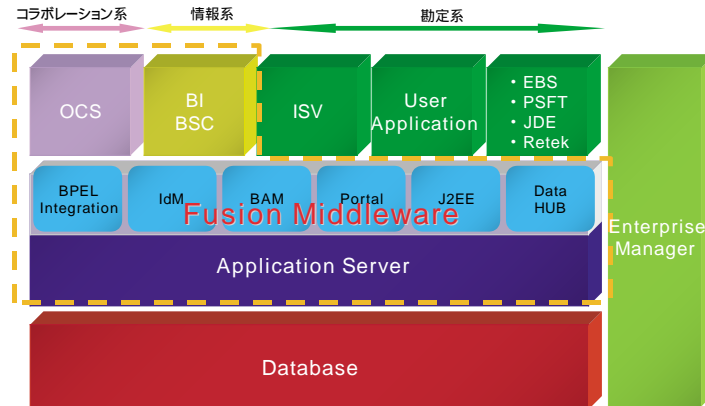


図2 Oracle Fusion Architecture によって統合されたセキュリティ基盤

イフサイクルが必要である。Oracle Fusion Middlewareには、BPELのデザインに必要な「Oracle BPEL Designer」、プロセスの実行を行う「Oracle BPEL Process Manager」、Business Activity Monitoringなどの機能が搭載されている。今日の日本市場で、SOAのライフサイクルを全て実現できるのは、Oracle Fusion Middlewareだけである。

また、プロセスが統合されても、データを統合してデータとデータの流れに一貫性を持たせなければ迅速な情報分析は行えない。ここで言うデータの統合とは、散在しているデータを結ぶHubという仕組みを実現することである。Oracle Fusion Middlewareは、Oracle Enterprise Data Hubにより散在するデータを集約し、クレンジングを行ってデータの価値と品質を向上させていく。

セキュリティ統合により リスクを排除

さらにオラクルは、ユーザーID管理や安全なWebサービスの実現のために、Obrix社を買収・統合した。そ

の結果、Oracle Fusion Middlewareのセキュリティ統合は、現在のITシステムに必要なユーザー管理/認証、アクセス制御、シングル・サインオン、レガシーおよび他社セキュリティ・ソリューションとの連携など、全ての要素を備えることとなり、セキュリティ強化のためのロジックを全て統合することが可能となった。セキュリティロジックが統合されて一貫性を持つことで、開発者はアプリケーション毎に個別の仕組みを開発したり、異なる仕組みのユーザーID管理を行う必要がなくなった。

「単にDBとASだけでシステム構築をするのではなく、必要な機能を全て持ち合わせた優秀なミドルウェアの上にシステムを構築することが、生産性とセキュリティを高め、そして、部分最適であったシステムを全体最適なシステムへと移行することができるようになります。」（前出、三澤執行役員）

お問い合わせ先

Oracle Direct
TEL : 0120-155-096
URL : <http://www.oracle.co.jp/direct>